

東北大学法学部同窓会

會報

第7号

発行所

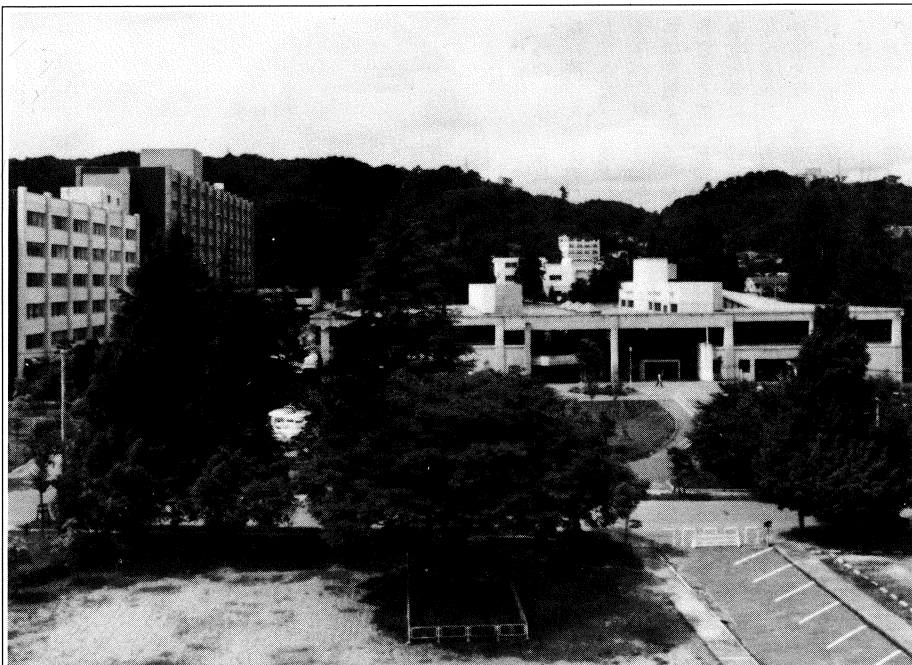
東北大学法学部同窓会

発行日

昭和55年9月1日

印刷所

大日本印刷東北事業部



東北大学附属図書館本館

昭和47年10月竣工、我が国有数の規模と設備を有し、地上2階、地下3階総面積12,480,91 m²の近代建築である。地下書庫には、貴重な文献および和漢書、洋書併せ 150万冊余りが収蔵されている。左端の建物は、手前から法学部研究棟および文学部・教育学部合同研究棟である。

法学部の近況について

会長 鈴木 木 緑 彌

前回の会報刊行（昭和五四年八月）以降、学園もおおむね静穏で、学生たちもスタッフ一同も、勉強に研究にそれぞれ励んでおります。今年三月の卒業生は総数二〇七名で、就職先は、公務員（公社・公団を含む）六五名、金融関係四五名、その他の民間企業六七名、大学院進学三名などとなっています。

新入学生がそろそろ到着きはじめた五月二四日に現在は東北学院大学の法学部長をしておられる斎藤秀夫名誉教授の末学をお願いして、本学部学生を対象として私の学んだころと学問を思う想い」と題しての学術講演会を開催しました。佐藤丑次郎先生をはじめとして、法学部法学科開設の頃からの先輩・同僚の諸先生についての思い出話を中心としたもので、傍聴したわれわれスタッフにも耳新しい点も多く、興味津々たる内容でしたが、とくに年輩の卒業生の方々にお聞かせしたら、さぞ懐かしく聞かれたことと思いい、それができなかったのが、残念でした。

なお、同窓生の皆様の御厚意により、わが法学部のために多額の学術振興基金が集められましたことは、のちに小幡事務局長代理からの御報告にありますとおり、厚く御礼申し上げます。この事業についての安西会長や小幡事業局長代理の献身的なご努力には感謝の言葉もございません。また、いわば私どうちわ同士のことですが、学部側での外尾前々学部長・幾代前学部長のお骨折に対しても、謝辞を禁じえません。御浄財の元本は、委任経理金の形であるべく長く温存し、できればその利息のみを費して、法学部の学術振興に役立てるべく、スタッフが鳩首して協議してきました。その結果、使途案の骨子もほぼできあがり、目下その細目を煮つめる作業に努力するとともに、部分的には、すでに前述の学術講演会のような形で利用を実施しつつあります。同窓生の皆様の御厚意に報いて研究・教育の成果を高めるよう、スタッフ一同鋭意努力してゆく決意であります。

遅れましたが、人事の面では、この一月に世良晃志郎教授（西洋法制史）が宇都宮大学長に選出され、また、十月には樋口陽一教授（比較外国憲法）が東京大学に転出される予定です。片や、わが国西洋法制史学の最高権威で、また、三〇年にわたり本学部の支柱となつてこられた方であり、片や、憲法学界の新時代の旗手であり、また、皆様御存知のとおり本学部出身のスタッフの代表の一人で同窓会の実質的中心人物として骨折つてきてくれた人でもあります。このお二人が定年に至らず相次いで本学部の去られることは誠に残念であり、かつは、一抹の淋しさを禁じえないことは事実です。しかし、御両所とも、新天地において、片や大学の管理運営にその能力を存分に発揮され、片やわが国憲法学界の中枢を占めてその学説の指導力を大いに展開され、それぞれ間接的にわが学部の名声を高めて下さるようにお願ひするほかはありません。両教授の御多幸を祈ります。

大学生活六〇年をかえりみて

老教授の「ぐち」

東北大学名誉教授

清宮 四郎



は去年の「法学セミナー」の五・六・七・八・九の五号にわたって連載されている。座談会は、長くなりすぎるので、東北大学のところまでで打ち切られている。

わたしは、これまで、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

わたしは、これまでに、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

は高し」という名のものがあり、大学卒業生について、「学士様なら娘をやるか」という本が出版されたくらいである。

戦後は、大学と国家との特別の結びつきはなくなり、数多くの大学が新設され、なかには「駅弁大学」などとあざけられるものも見られたが、その後それらも次第に整備され、大学教育はいちじるしく普及・充実にされている。

大学は、「学府」すなわち学問をするところであり、天野貞祐さんがいわれた通り、「学問を通じての人間形成の場」である。大学に属する者は教師も学生も学問に専念する義務と責任とがあるわけであるが、それが実際に理想通りに行われるとはかぎらない。まず学生であるが、どの大学にも、学問をおろそかにし、学問を通さずに、人間形成を心がけているのではないかと思われるような学生が見受けられる。会って話をすると、素直ではがらかな人間でありながら、答案やレポートを見ると、ガツカリさせられ、にくらしくさへ感じさせられるような者もいる。学生時代に怠けていて、卒業間際になってもっと勉強しておけばよかったと思う者もかなり多い。実はわたしもその一人であった。

次に、教える立場にある教師の独占に属するものではない。案外広く誰にでも、いろいろの機会に教えられるものである。親は子に

が、兄は弟に教え、先輩は後輩に教える。しかし、大学教授のよ

明治憲法時代には、大学令という勅令によって、「大学ハ国家ニシ並其ノ蘊奥ヲ考究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及国家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス」(第一条)と定められ、大学と国家とが特別に結びつけられていて、それが明治政府のねらうところでもあったが、当時でも、大学のありかたをゆがめるものではないかという疑問がもたれていた。

大学令の規定はとにかく、当時の大学は、「最高学府」といわれ、現在とくらべて、その数は少なく、社会的地位はかなり高く評価されていた。「家族合(あわせ)」といわれる合せ物カルタのの遊戯のなかの家族のひとつに「大学教授鼻

教える。兄は弟に教え、先輩は後輩に教える。しかし、大学教授のよ

が、兄は弟に教え、先輩は後輩に教える。しかし、大学教授のよ

が、兄は弟に教え、先輩は後輩に教える。しかし、大学教授のよ

わたしは、これまでに、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

わたしは、これまでに、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

わたしは、これまでに、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

わたしは、これまでに、六〇年の長い間、大学と結びついた生活をしてきた。学生として三年（東京大学）、研究生（同上）および在外研究員として三年、そうして、教官として、京城大学に一四年、東北大学に二〇年、日本大学に五年つとめたのち、昭和四三年から独協大学に移って、今日に至って長い。東北大学との関係がいちば

身につけていないことを伝えたり、教えたりしてはいないだろうか、という意味に解するのがよさそうである。教授という職にある者は、いつもこのような懸念におびやかされているのである。

以上、長い大学生活をふりかえつてみて、あれこれと述べてみよう。

募金の最終報告と

お札について

募金会事務局長代理

小幡 常夫

暑い日が続いておりますが、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、去る五三年五月以降、標記の募金の事業を進めてまいりましたが、皆様の御協力によりほぼ所期の目的を達成することができましたので、五四年一〇月一八日、東京において役員会を開き募金会の解散を決議いたしました。募金の総額は九、四八七万六千円（内個人 一、六八三人 四、〇八九万九千円、法人 五四社 五、一四二万円、利息二五五万七千円）に達しました。本年二月、募金経費を除いて、約九千万円を国に寄付し、東北大学法学部において委任経理金として運用していく手続

をとりました。

一、六〇〇名を超す同窓生の母校愛と、五〇に及ぶ法人のご厚意、また多数の大学関係者の特別寄付等、善意の結晶とも申すべきこの募金は、必ずや東北大学法学部の発展と、後輩諸君の勉学の上に大きく寄与するものと確信いたしました。寄付者各位に対しましては昨年末、募金会会長（安西 浩氏）と法学部長（幾代 通氏）の連名で報告書およびお札の手紙を差上げましたが、その後の経過も含め、会報の誌上をかりて、御報告並にお札を申上げる次第であります。

同窓会総会報告

佐々木 尚 介

昭和五四年度の同窓会総会は、宮城支部総会と合同のかたちで、昨年二月六日（木）午後六時から、仙台市内のプラザ・軒を会場としておこなわれた。幾代通会長、外尾健一前会長ほか五〇余名が出席、昭和五三年度収支決算書を承認したほか、特に、法学部学術振興基金の募金完了について報告があった。同基金については、同窓会総会に先立つ十一月二四日の東京支部会総会の席上で、募金会の会長として事業達成のため陣頭に立つて尽力された安西浩・東京支部会会長より幾代法学部長に募金目録の贈呈がおこなわれたばかりであり、総会当日は、募金会の事務局長代理として困難な仕事ととりしきられた小幡常夫・東京支部会事務局長にご来仙いただき、そのお話を伺いながら、参会者一同で、この記念すべき事業の成功を祝い合うことができた。

議事終了のあとは、乾杯にひきつづき、大先輩から若手にいたるまで、あるいは和やかなテーブル・スピーチを聞きながら、あるいは快い酔に談論風発をたのしみながら、時のたつのを忘れて交歓したのであった。

（同窓会事務局長）



支部だより

東京支部会

小幡 常夫

昨年十一月、第一ホテルでの総会で、安西支部会々長が、酸素を吸って炭酸ガスを吐くだけの長寿は無意味、同窓会のような集りに

参加されてこそ祝福すべき長寿である。と健康を力説されました。宜なる哉、当支部会は大勢の大先輩が矍鑠として出席されております。報告事項では、学術振興基金募金運動が、東京支部会主導の下で成功裡に終了したこと・五十五年総会までに新支部会名簿を作成すること。残事では石原日産自動車社長が副会長に選出されて執行部が強化されたことを特記して呈します。わざわざ上京の幾代同窓会長は、先の募金運動における東京支部会の活躍を大きく評価されて、謝辞を以って祝辞とされました。議事後、叙勲の植松先生・新任の三木都副知事・当選の伊藤代議士のお慶び（多数当選者中出席者一人）をご披露、ご本人達のごやかなご挨拶に拍手が湧きました。懇親会では、百八十人の出席者が十二のテーブルで豪華料理に杯を傾け、恒例の屋台そば、焼鳥も人気を集めました。若手のテーブルが大先輩を囲んで交歓する有様は、「これぞ東北大学法学部同窓会の真骨頂」と東京支部会が誇る一情景なのです。若い年層の会員諸君がいよいよ奮って参加され、諸先輩に親しく接して自己啓発の縁とされることを望んで已みません。

新名簿は作成準備中ですが、今回は約三千名に及ぶ東京圏内居住者を網羅する計画です。五十四年発行の本部の名簿と新資料を照合中ですが、既に六月末日で百名以

上の変更（死亡・転出・転居不明）があり、更に住所・職業・職位・電話（職場・自宅）の変更は実に八百件以上ののぼっております。先に照会した調査では、(※)とされた方が終身会員を含めて千二百人程度ですが、二百部の子備を印刷しますので、未返信の方は早めに支部会事務局にお申込み下さい。

（東京支部会事務局長）

東海支部

水谷 厚生

後記の通常活動以外には取り立て、ご報告する程のものはありません。

（当支部昭和五五年度同窓会名簿作成について）

去る昭和五四年一月一日現在時点で会員の變動を調査し、これに基き翌五五年三月一日頭書名簿を作成し、会員各位に送付しました。

登載会員（愛知、三重、岐阜県下に在住する者）数は一六七名でされました。なお当支部圏内に転入されましたらご一報下さい。（定期総会について）

例年どおり「鳥久」において、昭和五五年四月一八日午後六時開催され、引き続き懇親会が催され、約二時間ほど懇談の楽しい時を過ぎました。

出席者は二九名で、シングル(昭和一桁年度卒業者)から五三年度

卒まで、古い顔あり新しい顔あり、常連あり新転入者あり、転出後再度の転入者ありで大変賑わって盛会でした。

出席者名はつぎのとおりです。
（敬称略）菅谷知己(昭和三年)、北村利弥、中山俊一(以上同九年)、高橋宏一(同一年)、安藤武四郎、辻孝、成田進平(以上同二年)、山田保(同五年)、八島行康(同八年)、井口孝文、小森治雄、長谷川伴夫、前田鎮夫(以上同九年)、池田光男、山口利男(以上同二年)、谷口隆(同二年)、糸賀昭夫、桜井和夫、森郷巳(以上同三〇年)、旗進(同三一年)、笹原幸夫(同三三年)、大島尚之(同三五年)、水谷厚生(同三六年)、佐竹英博(同三八年)、永浦邦彦(同三九年)、谷川輝男(同四〇年)、鈴木康弘(同四三年)、荒田守(同五三年)。

（東海支部事務局長）

岩手支部

畑山 尚三

私共岩手支部は、一昨年に正式に規約を定め、以来、これにより一年一回の通常総会の開催等、支部会員相互の親睦を図るため活動を強化してきております。

本年度におきましても、去る五月三十一日に、盛岡市菜園の「大雅」に於て、昭和五五年度通常総会を開催致しました。当日は、土曜日の午後六時から

の開催ということにもかかわらず、県内各地から、三十数名の多数の会員諸氏の出席を得、盛会裡に開催することができ、また、同窓会本部より学部長代理として阿部純二教授の御出席をいただき、私共の総会を一段と実りあるものにしていただくことができました。

総会においては、昨年度の収支決算の報告が承認されたほか、任期満了による役員改選が行われ、関文香支部長の留任を議決する等次のとおり改選されました。

支部長 関 文香(岩手大学名誉教授 昭和八年卒)留任
副支部長 渡辺 武(岩手日報社会長 昭和十三年卒)留任
幹事 畑山尚三(弁護士 昭和二十八年卒)留任
川村 登(株式会社東北堂取締役社長 昭和二十八年卒)新任

総会終了後、懇親会を行いました。会には終始和やかに、阿部教授からの学内の近況、岩手大学人文社会科学部の創設に尽力された

関支部長の御苦勞話、本年度より岩手支部に加入された、同大学学長の原田三郎教授(昭和十二年卒)のお話等を交えながら、会員諸氏は、しばらくぶりの再会を喜びあり、それぞれの想い出をなつかしみ、夜の更けるのも忘れるほど、盛況のうちに行うことができました。

（岩手支部事務局長）

同窓会の経理の危機

滞納会費の払込を

いま 同窓会の経理状態は、非常に苦しい状況に追いこまれています。今後の同窓会の運営、発展のためにも、経理のみなおし(再検討)の必要に迫られており、なかでも見逃すことのできない一つに、会費滞納会員が意外に多いこととあります。

現在、同窓会の会費納入状況について見ると、同窓会々費を納めている会員で、①終身会費を納めた会員は、約二、四〇〇余名、②毎年会費を納めている会員は、約二、七〇〇余名で、合計五、一〇〇余名が同窓会に登録されている会員数であります。

本同窓会の同窓生総数は、旧制三、八四一名、新制四、八四六名併せて八、六八二名ですが、この中に、会費を納めていない未登録会員が一、六〇〇余名健在であり、残りの会員は、他界された方々、

所在不明の方々並に外国人等の会員であります。

②の毎年会費を納めている会員の約半数以上の千数百余名が、なんらかの事情で滞納しており、同窓会の命脈を左右しかねない結果となっております。

また、会報を一回発行すると約五十万(うち、郵便料三十万円余)、二年に一回発行の会員名簿が五〇〇万円(うち、郵便料一〇〇万円以上)の経費が必要であり、昭和四十八年の石油ショック、その後の物価高騰に加えて、郵便料の大幅値上げが響き、最近のインフレ傾向と併せ、同窓会の経理を圧迫しようとしています。明年(昭和五十六年九月子定)は、会員名簿の発行年次に当り、数百万円の資金を必要としており、同窓会のきびしい経理状態をご賢察下さって、是非とも滞納額を最小限に喰い止めることができまますよう会員の皆様

に絶大なるご協力を何卒お願いいたします次第です。



東北大学法学部
学術振興基金

設立募金報告書
個人寄附卒業年次別一覽

事務局長代理
小幡 常夫

55.2.16現在

卒年次	人員	金額	卒年次	人員	金額
T.15	5	190,000円	S.31	48	1,120,000円
S.2	14	450,000	"32	70	1,620,000
"3	21	670,000	"33	45	1,085,000
"4	11	350,000	"34	53	1,180,000
"5	11	360,000	"35	54	1,050,000
"6	27	812,000	"36	53	1,105,000
"7	25	790,000	"37	28	590,000
"8	18	570,000	"38	25	511,000
"9	28	810,000	"39	24	470,000
"10	18	620,000	"40	27	810,000
"11	24	800,000	"41	21	349,800
"12	38	1,045,000	"42	23	430,000
"13	27	940,000	"43	32	610,000
"14	31	905,000	"44	13	190,000
"15	40	1,010,000	"45	10	180,000
"16.3	30	900,000	"46	20	241,000
"16.12	42	1,020,000	"47	20	210,000
"17	36	1,060,000	"48	19	200,000
"18	44	1,050,000	"49	18	190,000
"19	49	1,260,000	"50	20	230,000
"20	4	110,000	"51	19	204,000
"21	36	830,000	"52	17	200,000
"22.3	18	440,000	"53	24	246,000
"22.9	31	875,000	修士	4	80,000
"23.3	36	845,000	元教官	8	630,000
"23.9	6	150,000	現教官	24	820,000
"24	13	530,000			
"25	30	810,000	総計	1,683	40,899,000
"26	26	650,000			
"27	37	1,150,000			
"28	41	915,000			
"29	2	6,000			
"28新	34	930,000			
"29新	62	1,350,000			
"30	49	1,090,000			

法人寄附

昭和54年10月18日現在

東京光産社	会長 安西興石	ス浩産車 (株)	8,000,000	日興証券 (株)	500,000
出光産社	会長 興石	正實 (株)	3,000,000	千代田化工 (式)	500,000
三菱	社長 自長	動車 (株)	3,000,000	大成建設 (株)	500,000
東京電力		石原俊 (株)	3,000,000	T. K. C. (株)	500,000
三菱電機			2,000,000	社長 飯塚毅	500,000
七七銀行			2,000,000	川崎電気 (株)	500,000
新日本製鉄			2,000,000	日立製作所 (株)	500,000
東北電力			2,000,000	高砂熱化学 (株)	500,000
日本電気	相談役 肥後一郎		2,000,000	山武ハネウエル (株)	300,000
日本鋼管			2,000,000	会長 松岡正雄	300,000
三菱化成工業	相談役 柴田周吉		1,000,000	サッポロビール (株)	300,000
旭ガラース			1,000,000	愛知時計電気 (株)	300,000
三菱地所			1,000,000	副社長 青木賢三	300,000
清水建設			1,000,000	河北新報 (株)	300,000
京王帝都電鉄	社長 井上正忠		1,000,000	社長 一力一夫	300,000
大阪電気暖房	相談役 菅谷知己		1,000,000	品川白煉瓦 (株)	300,000
山一証券			1,000,000	京浜急行電鉄 (株)	200,000
野村証券			1,000,000	山形銀行 (株)	200,000
三菱重工			1,000,000	丸新石油 (株)	200,000
鹿島建設			1,000,000	岩手銀行 (株)	200,000
トヨタ自工			800,000	荘内銀行 (株)	100,000
石川島播磨重工			500,000	振興相互銀行 (株)	100,000
岩崎通信機			500,000	殖産相互 (株)	100,000
味の素			500,000	日本光学 (株)	100,000
三菱共			500,000	盛岡タクシー (株)	100,000
三井物産			500,000	東北堂 (株)	100,000
電通			500,000	北日本相互銀行 (株)	100,000
				東北放送 (株)	50,000
				東北銀行 (株)	50,000
				エッソ・スタンダード (株)	20,000
				石油	
				54社計	51,420,000